

白山生態系維持回復事業計画の 策定に関する説明資料



白山国立公園

- 指定 昭和37年11月12日
- 面積 49,900ha



白山国立公園の外来植物による被害状況



近年の登山者の増加等に伴い、外国産の植物、国内の低地性の植物など、従来は白山国立公園に生育していない植物(外来植物)の分布が拡大

在来植物と外来植物の交雑による
遺伝的かく乱の問題



オオバコ とハクサンオオバコ

- ・近接して生育しているため雑種が増加
- ・在来植物のハクサンオオバコが減少

白山国立公園における外来植物の例

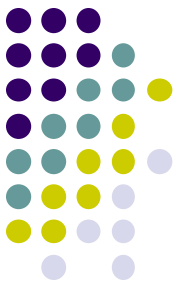


白山生態系維持回復事業計画(案)の内容

- **共同策定省庁** 農林水産省、国土交通省、環境省
- **事業の期間** 下記目標が達成されるまで
- **事業の目標** 白山国立公園の核心地域及び利用施設の周辺において外来植物を防除することで、白山国立公園の原生的な生態系の維持又は回復を図ることを目標とする
- **事業の区域** 白山国立公園全域

※下線は現行計画からの変更箇所

白山生態系維持回復事業計画の内容



● 事業の内容

(1) 生態系の状況の把握及び監視

→ 遺伝的攪乱を受けるおそれのある植物にミヤマアワガエリを追記

(2) 生態系の維持又は回復に支障を及ぼすおそれのある動植物の防除

→ 優先的に除去を実施する地域を明記

→ 施設整備について、目的を明記し、事例を追記

(3) 生態系の維持又は回復に必要な普及啓発

(4) 前各号に掲げる事業に必要な調査等

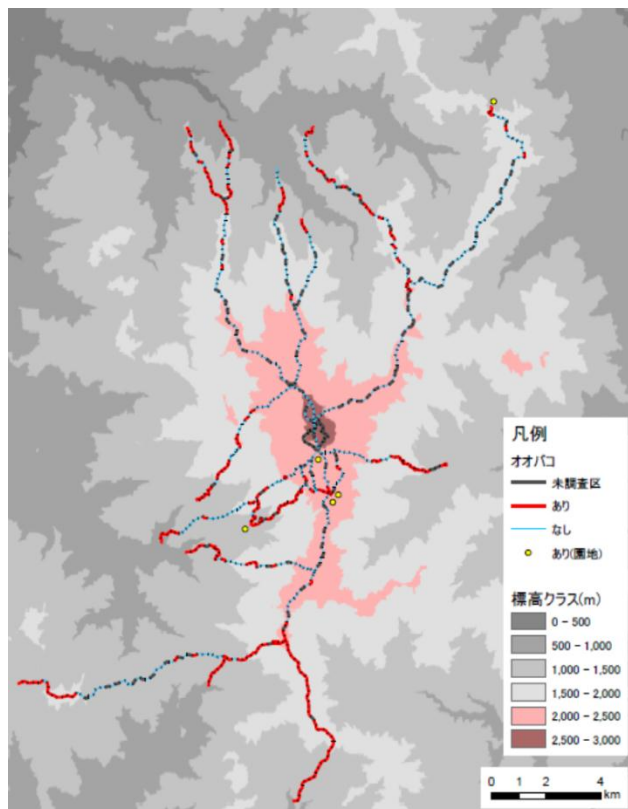
これまでの実施状況と成果①

生態系の状況の把握及び監視－外来植物の分布状況

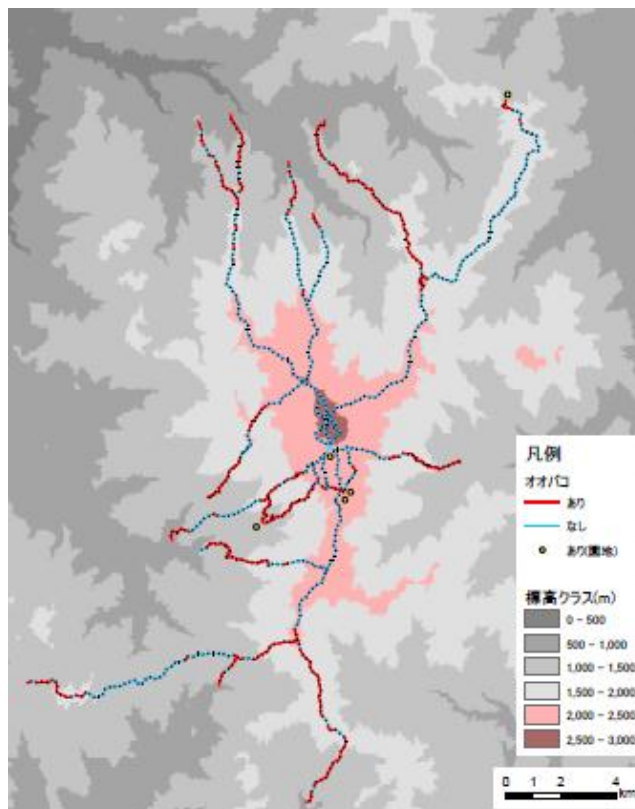
調査対象種：高山・亜高山帯で生育が確認されたオオバコ、エゾノギンギシ、アカミタンポポ等14種

＋ その他調査時に確認された外来植物

調査箇所：主要な登山道及び利用拠点



オオバコの分布状況(H22)



オオバコの分布状況(H26)

→

分布状況に大きな変化はなかった。

これまでの実施状況と成果②

生態系の状況の把握及び監視－交雑状況の確認

交雑のおそれのある植物の隣接状況調査
及び遺伝子解析

- オオバコとハクサンオオバコ

→自然下での交雑を確認

- オオアワガエリとミヤマアワガエリ

→自然交雑個体は確認されなかった

これまでの実施状況と成果③

生態系の維持又は回復に支障を及ぼすおそれのある動植物の防除ー外来植物の除去

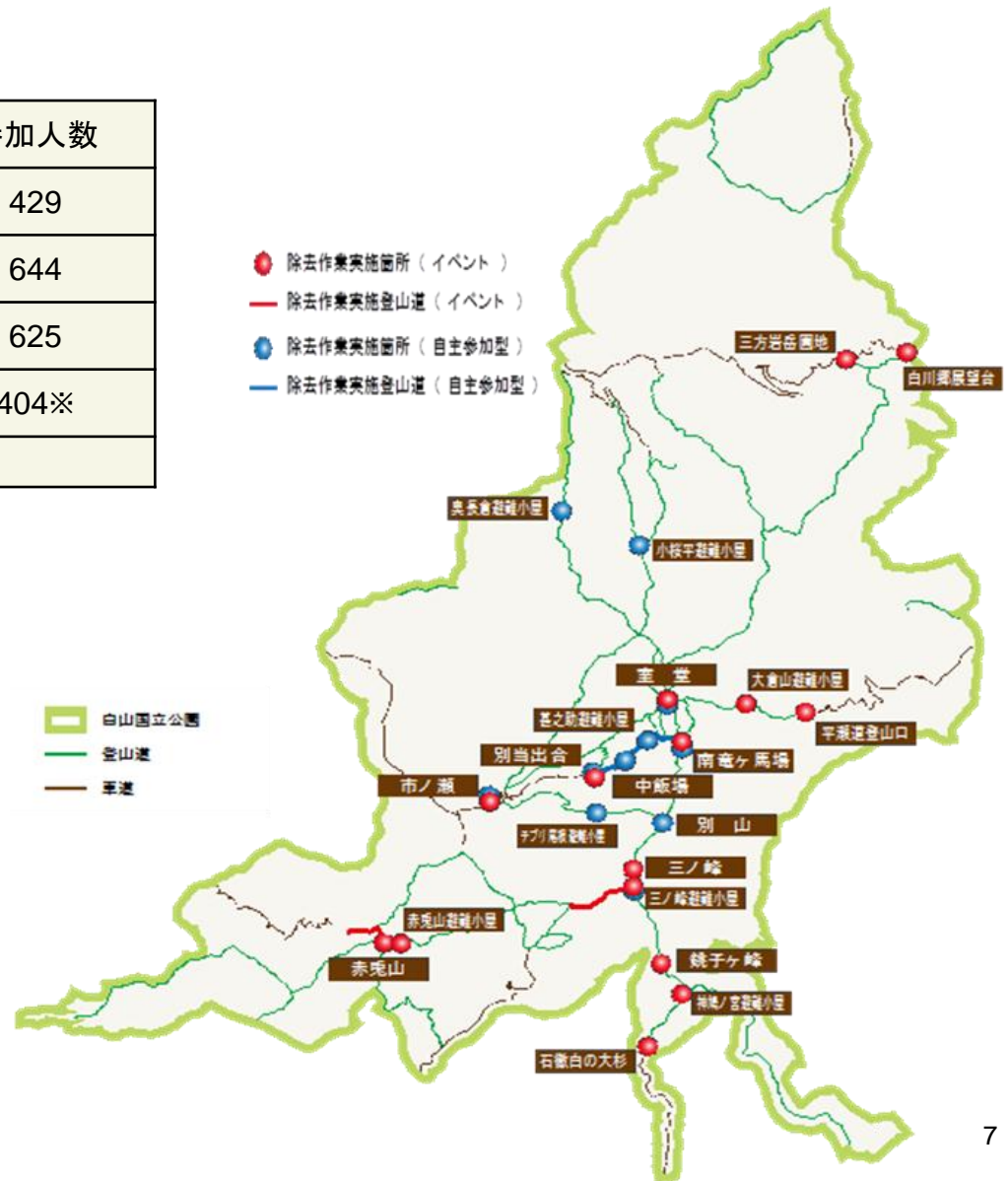
	対象種数	除去量(kg)	参加人数
H23年度	6	464	429
H24年度	10	747	644
H25年度	10	664	625
H26年度	11	197※	404※

※環境省事業のみの数値(その他団体は集計中)

対象種:オオバコ、アカミタンポポ等



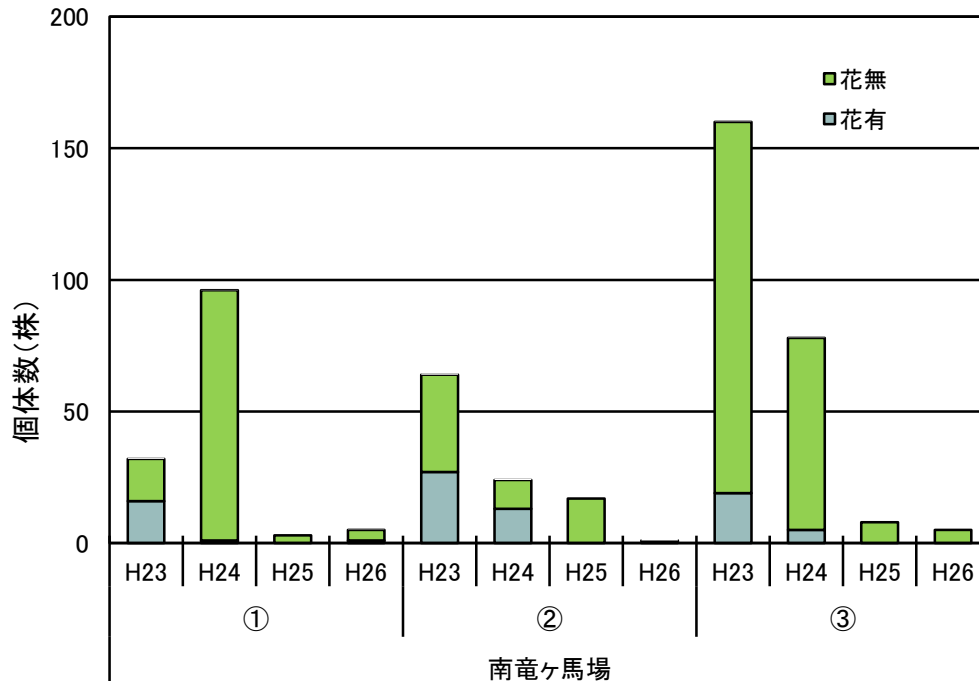
除去活動の様子



これまでの成果と実施状況③

生態系の維持又は回復に支障を及ぼすおそれのある動植物の防除－外来植物の除去の結果

- これまでのところ、外来植物の分布域に大きな変化はみられない。
- 除去(抜取り)作業を実施している箇所の一部で、外来植物の現存量の減少が確認された。

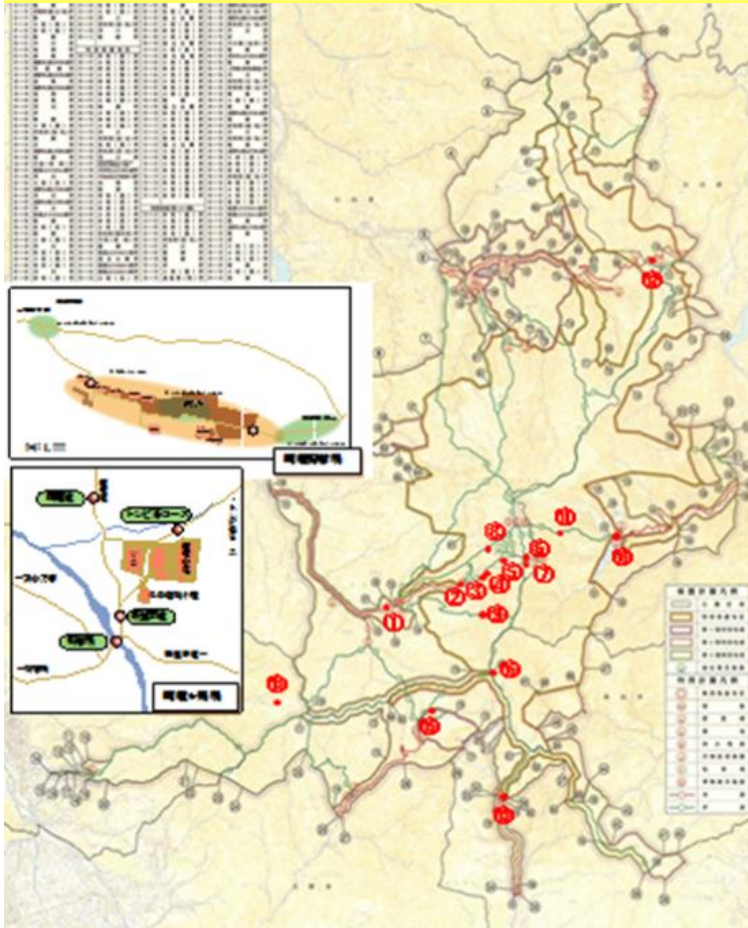


オオバコと在来のハクサンオオバコの交雑が確認されていた南竜ヶ馬場においては、継続的な除去作業の結果、オオバコの生育個体数が大幅に減少したことが確認された。

これまでの実施状況と成果④

生態系の維持又は回復に支障を及ぼすおそれのある動植物の防除－外来植物の侵入防止対策

種子除去マットを登山口・利用拠点に
計16箇所設置



工事車両のタイヤ及び物資輸送用のもっこ等の洗淨、作業者の靴の履き替え等を推進



工事車両のタイヤの洗淨水槽

これまでの実施状況と成果⑤

生態系の維持又は回復に資する普及啓発

- ボランティアによる一斉除去活動
- シンポジウム、パネル展の開催
- 企業CSR活動向けインストラクターの派遣
- オオバコ茶の配布



地元小学生も多数参加した除去活動の様子

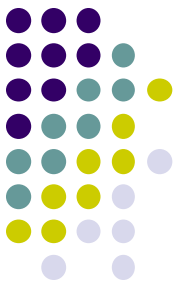


シンポジウムの様子



オオバコ茶配布の様子

これまでの実施状況と成果⑥



事業に必要な調査等

- 対策優先度の検討
- 植生管理目標の設定及びゾーニング
- 外来植物の効果的な除去手法の検討

種別に、地上部のみでの抜き取り、ムシロ等による被覆、草焼きバーナーによる焼却等の除去手法を検証

例) 草焼きバーナーによる焼却除去



オオバコは2年継続して焼却することで個体の再生はなくなった。
エゾノギシギシ、セイヨウタンポポ等は再生個体が確認された。